目　次

写真図版（和田家資料「内留」嘉永七年四月から万延二年二月まで全五巻／「鶴松様御著初御祝儀御次第」安政四年二月朝日）

発刊によせて

最後の「内留」――和田縫殿右衛門の晩年――

写真図版・解読「内留」嘉永七年四月から万延二年二月まで

嘉永七年／安政元年（一八五四）

四月　二十五日　天神宮御祭礼（巻一―10）……10

二十六日　殿様、塩釜一ノ宮へ屋形様御名代（巻一―12）……12

二十八日　味噌仕込み（巻一―13）……13

五月　四日　端午の御祝儀（巻一―18）……18

六日　屋形様へ献上の鯉、地引網引き方（巻一―21）……21

十二日　お貞殿より鮪下さる（巻一―24）……24

二十九日　五節句・三朔御祝儀の簡略（巻一―36）……36

六月　十日　縫殿右衛門老体に付、勤仕休み下さる（巻一―41）……41

十五日　お従様御婚礼済み御祝儀（巻一―41）……41

十月　十八日　お従様、岩ヶ崎中村様より御下り（離縁）（巻一―44）……44

安政二年（一八五五）

二月　二十八日　若殿様、屋形様へ御目見え済ませられ御下り（巻一―46）……46

十一月　十五日　縫殿右衛門、日勤仰せ付けらる（巻二―2）……50

お頼様御髪置き御祝儀（巻二―2）……50

十二月二十六日　お元様御箸初め御祝儀（巻二―9）……57

二十八日　歳暮の御祝儀（巻二―10）……58

安政三年（一八五六）

正月　七日　殿様御上府（巻二―14）……62

二十五日　恵鏡殿四十九歳・お貞殿三十三歳厄年に付、年直し御祝儀（巻二―21）……69

二月　十四日　白石小原温泉の湯、御取寄せ（巻二―29）……77

三月　三日　上巳の御祝儀（巻二―31）……79

十七日　真明院様老女小嶌の処遇について（巻二―35）……83

五月　十三日　屋形様御下向、御迎え（巻二―37）……85

八月　四日　お従様、宮床伊達家へ御縁組（巻二―37）……85

九月　二十日　お従様、お満様と御名改め（巻二―38）……86

十三日　殿様御上府、仙台藩江戸上屋敷御破損御見舞い

御機嫌伺い、ゲベール銃献上（巻二―40）……88

十一月　一日　縫殿右衛門、奥御年寄兼帯御用人御免（巻二―41）……89

十二月　十五日　縫殿右衛門、成教堂書流師兼帯院監となる（巻二―41）……89

安政四年（一八五七）

二月　一日　鶴松様御著初め（巻二―43）……91

十日　成教堂読書見分（巻二―43）……91

源五郎様御死去（巻二―43）……91

安政五年（一八五八）

正月　五日　殿様、塩釜一ノ宮へ屋形様御名代（巻三―1）……93

十一日　御鬮取り（巻三―2）……94

二十五日　御具足御飾り（巻三―4）……96

二十八日　若殿様御十五歳御年直し（巻三―4）……96

十一日　宮床伊達家お満様御懐胎（巻三―6）……98

涌谷伊達家お類様御懐胎（巻三―7）……99

三月　二十八日　お倭様へ種痘（巻三―10）……102

四月　四日　殿様・若殿様、仙台城御馬場にて馬事御覧（巻三―10）……102

五月　一日　宮床伊達家お満様、御安産の御祈祷（巻三―13）……105

七月　二十九日　殿様、屋形様来御参府まで御滞府（巻四―3）……109

八月　十日　殿様、御馬拝領（巻四―5）……111

九月　五日　松茸二百五十、仙台御屋敷へ送る（巻四―12）……118

十月　八日　暴瀉病除の薬配布（コレラの流行）（巻四―18）……124

十八日　屋形様、仙台御屋敷へ御立寄り（巻四―21）……127

十一月　十五日　鶴松様御髪置きの御祝儀（巻四―25）……131

若殿様御具足御召初め御祝儀（巻四―26）……132

十二月　十九日　殿様、十ヶ年御上府御蒙る（巻四―28）……134

二十日　御男子様（鶴太郎様）御誕生（巻四―32）……138

二十八日　鶴太郎様御披露目（巻四―36）……142

安政六年（一八五九）

二月　一日　源三郎様御二十五歳御年直し（巻四―45）……151

九日　お算様、小梁川采女様へ御縁組（巻四―47）……153

二十八日　殿様、大和様と御名頂戴（巻四―49）……155

三月　十八日　御婢女中さつき、浴衣不当所持に付、御吟味（巻四―53）……159

四月　一日　藤井、源三郎様御子（正一郎殿）を出産（巻四―55）……161

二十二日　正一郎殿、緑川源左衛門養子となる（巻四―59）……165

五月　十四日　悪疾（コレラ）流行に付、御祈祷（巻四―65）……171

七月　四日　お安様、琴御稽古御入門（巻四―67）……173

八月　二十五日　涌谷伊達家お類様御妊娠（巻四―68）……174

安政七年／万延元年（一八六〇）

二月　十二日　正一郎殿の御機嫌伺い、不都合有り（巻四―72）……178

三月　二十二日　御女子様（お末様）御誕生（巻四―74）……180

閏三月　一日　お倭様・お末様御披露目（巻四―74）……180

五月　十二日　若殿様奥様、来二月上旬御引越し内定（巻四―76）……182

六月　一日　殿様、右衛門様と御名頂戴（巻四―77）……183

十九日　縫殿右衛門、清太夫と名改め（巻四―78）……184

八月　十六日　お頼様御死去（巻四―80）……186

二十三日　宮床伊達家お満様、御女子様御出産（巻四―82）……188

万延二年（一八六一）

二月　五日　若殿様御結納（巻五―5）……193

十四日　若殿様御婚礼に付、女中仕度金渡さる（巻五―7）……195

二十一日　若殿様御婚礼に付、女中へ仰せ渡し（巻五―9）……197

写真図版・解読　鶴松様御著初御祝儀御次第……199

御案文……209

語句解説……239

人物解説……241

引用参考文献……252

凡　例

一、本書は、和田家資料「内留」嘉永七年四月から万延二年二月まで、「鶴松様御著初御祝儀御次第」、「御案文」を解読したものである。

一、和田家資料「内留」嘉永七年四月から万延二年二月までは、全五巻百九十八丁。大きさは、全巻ほぼ同じ大きさで縦26㎝×横16・5㎝。全紙竪二つ折り・四つ目綴。一部、裏面を再利用したものがある。各巻の丁数・資料番号は次の通り。

巻一「嘉永七年四月八日より安政二年九月十五日迄」　四十八丁（資料番号7―48―95）

巻二「安政二年十一月十五日より同四年二月十日迄」　四十四丁（資料番号7―48―96）

巻三「安政五年正月七日より七月七日迄」　十四丁（資料番号7―48―109）

巻四「安政五年七月二十五日より万延元年九月十二日迄」　八十二丁（資料番号7―48―97）

巻五「万延元年十二月十五日より同二年二月二十日迄」　十丁（資料番号7―48―108）

「鶴松様御著初御祝儀御次第」は、九丁。（資料番号7―48―116）

「御案文」は、全五巻三十丁。各巻の丁数・資料番号は次の通り。（資料番号7―48―118）二十丁、（資料番号7―48―119）二丁、（資料番号7―48―114）四丁、（資料番号7―48―120）二丁、（資料番号7―48―122）二丁。所蔵は、いずれも角田市郷土資料館である。

一、文書の解読は、上段（写真図版・中段（翻刻）、読み下し）・下段（語句解説）で構成した。下段（語句解説）で、項目のみ記載されているものは、調査中のものである。

一、読み易くするため、適宜読点・並列点を加えた。台頭・平出・欠字は、原文に合わせた。

一、翻刻は、出来るだけ原文で使用されている字体を用いた。読み下しは、常用の字体、仮名づかいを用いた。

一、助詞の「に（二）」、「は（者・盤）」、「へ（江）」、「て（而）」と「井」は、小さい文字にした。

一、漢字の繰り返し記号「〻」は「同」、「ゟ」は「より」、変体仮名は、常用の仮名を用いた。

一、本文の行間に書き加えられた文字は、本文に組み込んだ。本文余白に追記された部分は、「余白（上）」「余白（下）」などと記し、条や頁の終わりに記した。

一、文意の通じない文字や間違いと思われる文字には（ママ）、疑問の箇所には（カ）と記した。

一、付け加えた方が文章が整うと思われる語句については、括弧書きにして付け加えた。

一、判読できかねた文字や欠損部分は、字数が明確な場合、文字数分の□や影印で、不明な場合は、□と記した。文字が推定される場合は、□の中に文字を記した。

一、〻〻〻〻は、筆者が文字を見せ消ち（もとの文字が読めるように訂正した消し方）にしたことを表す。重ね書きで訂正された文字は、後に書かれた文字で判読した。

一、解説では、年齢を数え年で表した。

一、年間を通した主な出来事を目次としてまとめた。

一、主な語句解説・人物解説・引用参考文献は、巻末にまとめて記載した。

一、文書の解読は、前角田市郷土資料館長新庄屋元晴・角田市郷土資料館調査員氏家若子、本書の執筆・編集は、氏家が担当した。